

1 題材名 日本の見方, ヨーロッパの見方

2 題材について

(1) 題材観

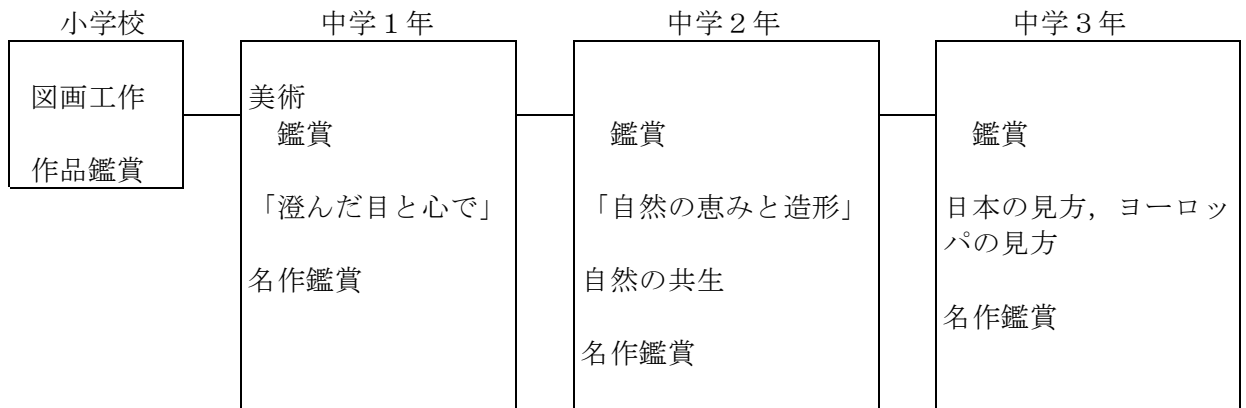
学習指導要領の中で2, 3学年鑑賞ウの目標には「日本の美術の概括的な変遷や作品の特徴を調べたり, それらの作品を鑑賞して, 日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに, 諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付き, それぞれのよさや美しさなどを味わい, 美術を通じた国際理解を深め, 美術文化の継承と創造への関心を高めること。」とある。本題材は, この内容を受けて構成した。

鑑賞の授業を行うとき, 観点を明確にして対象を示すことが効果的である。本題材では, 日本の作品とヨーロッパの作品を比較することにより, 対象のとらえ方や表現上の違いに気付かせ, 興味を持たせることがねらいである。また, 比較する内容としては, 衣服の柄の表現と遠近のとらえ方による違いによる空間表現を取り上げた。

モネの「ラ・ジャポネーズ」は, 日本の着物を着てポーズをとるモネ婦人の全身像である。役者絵がデザインされた着物を着たモネ婦人は, 上半身をねじるように立っているが, 着物の上部の柄は, ねじった上半身や着物のしわに沿ってゆがんで見えている。一方, 菱川師宣の「見返り美人」では, 似たようなポーズの人物を描いているにもかかわらず, 着物の柄は正面を向いている。また, ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」は, キリストを中心に最後の晩餐をとる弟子たちの姿を描いている作品である。室内の奥行きはキリストを中心とした一点透視図法によってその奥行きを表現している。一方, 「源氏物語絵巻」の室内表現は, 柱と梁がそれぞれ並行に表現されており, 投影図法的な表現が見られる。本題材では, これらの違いに気付かせ, 日本とヨーロッパの対象のとらえ方や表現の違いと, それぞれのよさを味わわせたい。

(2) 指導内容の系統

本題材に関わる教材の配列は, 次のとおりである。



学習指導要領では, 第1学年に「美術文化に対する関心を高める」学習を新たに示し, 3学年で系統的に美術文化に関する学習の充実が図られるようにしている。本題材では, 作品を絞った比較鑑賞により, 西洋と日本の特質の違いや共通点について気付かせたい。

3 生徒の実態について (〇〇名)

(1) 学級集団の実態

生徒は, 全体に素直でおとなしい生徒が多く, 指示されたことに対してはまじめにきちんと行おうとするが, 自主的に考えて取り組もうという姿勢がやや足りない傾向にある。このことは美術科の作業においても指示があるまでなかなか行動に移れなかったり, 何をどのように描いたらいいかわからないと訴える生徒が増えていることにも表れている。生徒の実態を考え, 興味の高い題材選びや個別指導の工夫などにより意欲を高めていきたいと考える。

(2) 単元（題材）に関わる実態

・調査結果

調査人数〇〇名 調査実施日；〇月〇日

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目①																				
項目②																				
項目③																				

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
項目①																
項目②																
項目③																

項目① 美術が好き

項目② 鑑賞学習が好き

項目③ 「浮世絵」を知っている

Q 1. あなたは美術の学習が好きですか？
好き 〇〇人 (◎) どちらともいえない 〇〇人 (○) 嫌い 〇人 (△)

Q 2. 美術の学習の中で何の領域が好きですか？（複数回答可）
絵画 〇〇人 彫刻 〇〇人 デザイン 〇〇人 工芸 〇〇人 鑑賞 〇〇人 (◎)

Q 3. あなたは「浮世絵」がどのような作品か知っていますか。
はい 〇〇人 (◎) いいえ 〇〇人 (△)

Q 4. 次の画家を知っていますか。

菱川師宣 〇〇人 岡本太郎 〇〇人 モネ 〇〇人
東洲斎写楽 〇人 ピカソ 〇〇人 ゴッホ 〇〇人
葛飾北斎 〇〇人 レオナルド・ダ・ヴィンチ 〇〇人

Q 5. あなたは今まで、図工や美術で学習した鑑賞授業で覚えている作家や作品を教えてください。

<小学校>よくわからない <中学校>岡本太郎, ピカソ, ゴッホ
レオナルド・ダ・ヴィンチ

・考察

生徒の多くは、自身が体を動かすことのできる表現活動（制作）を好む傾向がある。しかし、美術が嫌いになる生徒のほとんどは意識と技術のギャップからである。項目①で△になっている○、○○の生徒はもちろん、○の生徒においても、改めて美術に対する関心を持って欲しいと考える。日本と西欧の絵画を比較する鑑賞学習は美術作品への関心を高めるのに期待できる内容であるの

で、双方のよさに気付かせ、鑑賞する方法を指導し、美術の授業をますます好きにさせていきたい。

4 題材の目標

(1) 観点を明確にして鑑賞する方法について興味を持ち、気付いたことを進んで記述することができる。
 (関心・意欲・態度)

(2) 日本とヨーロッパの作品を比較することにより、対象のとらえ方や表現の違いとそれぞれのよさに気付き、説明することができる。(鑑賞の能力)

5 指導計画(2時間扱い)

(1) 比較鑑賞した作品の違いに気付き、比較することの意義についてを理解する。……1時間

(2) 作品を比較鑑賞し、日本とヨーロッパの対象のとらえ方や表現の違いを理解する。…1時間(本時)

6 本時の指導

(1) 目標

① 2組の作品を比較することにより、対象のとらえ方や表現の違いとそれぞれのよさに気付き説明することができる。(鑑賞の能力)

(2) 展開

学 習 活 動 と 内 容	時 配 形 態	指 導 上 の 留 意 点 ●福祉教育の観点での工夫	評 価 (方 法)
1 教師の説明を聞いて、本時の学習課題を把握する。 ・漠然と作品を見るのではなく、観点を明確にすることによって鑑賞が深まることを確認する。 対象のとらえ方や表現の違いについて理解するためにはどうすればよいだろうか。	5分 一斉	○ 前時に比較した作品とその比較した観点を振り返り、比較することの意義について確認する。 ○ 前時に比較した「見返り美人」と「ラ・ジャポネーズ」を提示する。 ○ 本時に比較する「最後の晚餐」と「源氏物語絵巻」を提示し、簡単に解説する。	
2 「最後の晚餐」と「源氏物語絵巻」を鑑賞し、気付いたことを発表する。 ・どのように奥行きを表現しているか考える。 ・うまく表現できている点はどこだと思うか。 「最後の晚餐」一点透視図法 「源氏物語絵巻」投影図法	25分 一斉	● 気付いた点について発表させるが、周囲の友達と相談する時間を確保する。また、発表者には賞賛の拍手を送れるよう促す。 ○ 学習プリントは発表を参考に記入させる。 ○ よい発想のものをピックアップし、適宜紹介する。 ○ 観点を確認させ、西洋画の科学的な遠近法などの技術と浮世絵の大胆な構図や鮮やかな色彩など、双方のよさに気付かせる。	○ 参考作品に興味を示し、積極的に発表することができる。 (観察) (発表)
3 学習プリントに気付いたことを記入し、教室の様子を描き、比較する。 ・それぞれの鑑賞作品と同じ方法を使って、教室の様子を描いてみる。 ・2組の作品の比較から気付いたこと	15分 個別 5分 一斉	○ 時間によって黒板に何点か選んで展示する。 ○ 表現の違いやよさについて確認する。	○ 発表を参考に学習プリントに記入できたか。 (観察) (学習プリント)

を発表する。
・ 作品を展示する。

○ 本時の簡単な感想と次時の予告
をする。